

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
80045	2008/03/25	71075	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080107.0087	英国National CJD Surveillance Unitに報告された2008年1月7日現在のCJD数は、vCJD診断確定死亡症例(確定例)114名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断がない)48名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断待ち)1名で、vCJD診断確定または可能性例の死亡総数163名であった。生存中のvCJD可能性症例数は3名であった。英国におけるvCJD流行は減少しつつあるという見解に一致する。	36
80095	2008/05/26	80188	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: 609-619	ヒツジのリコンビナントPrP(rPrP)のヒツジにおける血液クリアランスならびにスクレイピー関連フィブリル(SAF)静注後のPrPresへの曝露について調べた。rPrPのARR変異型は、VRQ変異型よりもより早く除去された。また、PrPcのARR変異型のクリアランスがVRQ変異型のクリアランスよりも大きいことが示唆された。rPrPの血漿クリアランスは、両腎臓摘出後は52%減少し、rPrP除去に腎臓が重要であることが示された。PrPresはSAF静注後は緩やかに除去された。	37
80080	2008/04/25	80127	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 33	1990年代にウシ海綿状脳症が英国で流行したことを受けて、ヒト及び動物において伝染性海綿状脳症を検出するために開発された様々な技法についての総説である。vCJDが輸血により感染しうることが明らかなることから、vCJDの診断に関する血液検査の開発が最優先事項である。	38
80080	2008/04/25	80127	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 34	伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播性を調べるための実験的アプローチ法を要約し、実験における所見と自然発生するTSE(主にウシ海綿状脳症及びスクレイピー)およびコントロール方法との関連性を考察している。	39
80095	2008/05/26	80188	感染	56th Annual Meeting of the American Society of Tropical Medicine and Hygiene 1044	ヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)の発生率は、1999年以来2倍となった。原因病原体のAnaplasma phagocytophilumによる血液の安全リスクを調査するため、間接免疫蛍光法を用いてコネチカット州及びマサチューセッツ州の血液ドナーのA. phagocytophilumに対するヒトIgG抗体を測定した。その結果、2001年から2006年に採取された15,828ドナー血清中432例(2.7%)が抗体陽性であった。比較的高い陽性率が持続していることから、A. phagocytophilumの血液安全性に及ぼす影響を調べる必要がある。	40
80046	2008/03/25	71076	感染	ABC Newsletter 2008年1月11日	血液安全・安定供給諮問委員会は、米国保健社会福祉省事務局に対し、安全で効果的な輸血用血液製剤の病原体低減技術(不活化)の早急な開発を優先して進め、開発され次第実施するよう勧告した。病原体低減の効果と安全性を示すエビデンスの蓄積は、今後蔓延する可能性のある感染症に対し広く適応できるセーフガードとして、この技術の導入を保証するという決議を採択した。	41
80077	2008/04/25	80124	感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	カナダ血液サービスとHema-Quebecが主催した血漿分画製剤における病原体不活化(PI)に関するコンセンサス会議で得られた結論の考察と主な見解が報告されている。現在ヨーロッパで広く用いられているPIがカナダや米国で実現されようとしている。PIを推進することによって、現在の技術や供血者スクリーニング法では防ぎることができない輸血伝播感染症を減らすことができる。	42
80046	2008/03/25	71076	感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	2007年3月29-30日、カナダのトロントで行われた病原体不活化(PI)技術に関するコンセンサス会議の報告である。近年の検査技術の発達により、現状の輸血感染リスクは非常に低く、PIを直ちに導入する事は推奨しない。しかし新興感染症のリスクは未知数であり、PIは予防手段として重要である。広範囲の病原体を不活化できる安全な方法が確立されれば実施すべきである。	43
80045	2008/03/25	71075	感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	日本赤十字社(JRC)が全国的ヘモビザンズ体制を導入してから14年が経過した。報告された輸血副作用症例数は年間約2000例で、過去3年間はほぼ一定である。非溶血性輸血副作用は報告症例の約80%を占め、輸血関連急性肺障害などが含まれる。輸血感染症の報告数は年々減少している。JRCのヘモビザンズは病院の自発報告に基づいており、病院と血液センターとの協力が不可欠である。	44
80048	2008/03/25	71078	寄生虫感染	Int J Med Microbiol 2007; 297: 197-204	ドイツにおけるヒトバベシア症の初めての症例を報告する。患者は結節性リンパ球性ホジキンリンパ腫が再発し、脾臓摘出されたドイツ人の63歳男性で、リツキシマブ投与後、貧血とヘモグロビン尿による暗色尿のため入院した。末梢血塗抹標本で梨状の寄生虫赤血球封入体が確認され、バベシア症と推定され、Babesia特異的18S rDNA PCRによって確認された。シーケンス分析によりEU1と99.7%の相同性があり、EU3と名づけられた。寄生虫が消えるまでにはatovaquoneによる長期治療を要した。	
80046	2008/03/25	71076	細菌感染	ABC Newsletter 2007年9月21日	FDAは輸血前の血小板中の細菌汚染を検出するための初めての迅速検査を販売承認した。Verax Biomedical Inc 製造のPlatelet Pan Genera Detection Test Systemは病院の輸血部で使用するための使い捨て検査機器である。	

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
80100	2008/05/30	80207	細菌感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 193-201	ルックバック調査でPropionibacterium acnes汚染が推定される血小板濃縮製剤(PC)の保存から輸血までを追跡したところ、輸血後の有害事象は見られなかった。In vitro試験でプロピオン酸菌属の臨床分離菌をPCに接種し、好氣的に22°Cで10日間保存という条件下での生育を調べたところ、細菌の生育は緩慢か生育を認めなかった。プロピオン酸菌属はPC保存条件下では増殖しないため、検出されないか、輸血後に検出されると考えられた。	45
80030	2008/03/12	70993	鳥インフルエンザ	China View, www.chinaview.cn 2008-01-10	2007年12月に江蘇省南京で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染患者は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていない。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家禽との接触がないため、息子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。ヒト用トリインフルエンザワクチンは臨床試験Phase IIの段階にある。	
80045	2008/03/25	71075	鳥インフルエンザ	WHO/GSR 2007年12月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5): 2007年12月9日、中国衛生省は同ウイルスの新規ヒト感染症例を報告した。Jiangsu省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親で、現在入院中である。中国での確定例は27例で、うち17例が死亡している。	46
80045	2008/03/25	71075	日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	2004年11月から2005年2月にかけて、日本の西部に位置する広島県の野生イノシシから血清25検体を採取した。日本脳炎ウイルス(JEV)に対する抗体検査を、IgMキャプチャー及びIgG酵素免疫測定法(ELISA)、並びにプラーク減少中和試験により行った。17検体(68%)がJEV中和抗体陽性だった。中和抗体陽性検体は全てIgG-ELISA陽性だった。1検体はIgMも陽性だった。約70%の野生イノシシが抗JEV抗体陽性であることが示され、この地域のJEV感染サイクルに関与している可能性が提示された。	

医薬品 研究報告 調査報告書

識別番号・報告回数			報告日	第一報入手日 2008. 3. 5	新医薬品等の区分 該当なし	機構処理欄
一般的名称	解凍人赤血球濃厚液		研究報告の公表状況	OIE - World Organisation for Animal Health. Available from: URL: http://oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm	公表国 OIE	
販売名(企業名)	解凍赤血球濃厚液「日赤」(日本赤十字社) 照射解凍赤血球濃厚液「日赤」(日本赤十字社) 解凍赤血球-LR「日赤」(日本赤十字社) 照射解凍赤血球-LR「日赤」(日本赤十字社)					
研究報告の概要	<p>○世界(英国を除く)の畜牛におけるウシ海綿状脳症(BSE)症例の報告数 1989年から2008年(3月現在)までに、世界各国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたウシ海綿状脳症の報告数である。2007年にBSE症例が報告されたのはオーストリア(1頭)、カナダ(3頭)、チェコ共和国(2頭)、ドイツ(4頭)、アイルランド(25頭)、イタリア(2頭)、日本(3頭)、ポーランド(7頭)、スロベニア(1頭)、スペイン(26頭)である。2008年には、これまでにカナダ(1頭)とアイルランド(6頭)から報告されている。</p>					使用上の注意記載状況・ その他参考事項等
						解凍赤血球濃厚液「日赤」 照射解凍赤血球濃厚液「日赤」 解凍赤血球-LR「日赤」 照射解凍赤血球-LR「日赤」 血液を介するウイルス、 細菌、原虫等の感染 vCJD等の伝播のリスク
報告企業の意見			今後の対応			
1989年から2008年(3月現在)までに、世界各国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたウシ海綿状脳症の報告数である。英国を除くヨーロッパでは、1999年から2003年頃をピークに流行は収束しつつある。			日本赤十字社は、vCJDの血液を介する感染防止の目的から、献血時に過去の海外渡航歴(旅行及び居住)を確認し、欧州36ヶ国に一定期間滞在したドナーを無期限に献血延期としている。また、英国滞在歴を有するvCJD患者が国内で発生したことから、平成17年6月1日より1980~96年に1日以上英国滞在歴のある方からの献血を制限している。今後もCJD等プリオン病に関する新たな知見及び情報の収集に努める。			



defined

■ Number of cases in the United Kingdom ■ Number of reported cases worldwide (excluding the United Kingdom)

■ Cases in imported animals only ■ Annual incidence rate

Number of reported cases of bovine spongiform encephalopathy (BSE) in farmed cattle worldwide*(excluding the United Kingdom)

Country/Year	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
Austria	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	1		
Belgium	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	3	9	46	38	15	11	2	2	0	
Canada	0	0	0	0	1(b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(a)	1	1	5	3	1(c)
Czech Republic	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	7	8	3	2	
Denmark	0	0	0	1(b)	0	0	0	0	0	0	0	1	6	3	2	1	1	0		
Finland	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(a)	0	0	0	0	0	0	
France	0	0	5	0	1	4	3	12	6	18	31(a)	161(d)	274(e)	239(f)	137(g)	54(h)	31	8		
Germany	0	0	0	1(b)	0	3(b)	0	0	2(b)	0	0	7	125	106	54	65	32	16	4	
Greece	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0(k)	
Ireland	15(a)	14(a)	17(a)	18(a)	16	19(a)	16(a)	73	80	83	91	149(d)	246(e)	333(f)	183(g)	128(h)	69(i)	41(j)	25(k)	6(c)
Israel	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
Italy	0	0	0	0	0	2(b)	0	0	0	0	0	0	48	38(a)	29	7	8	7	2(k)	
Japan	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3(e)	2	4(g)	5	7	10	3(k)	
Liechtenstein	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(a)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Luxembourg	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0(k)	
Netherlands	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	20	24	19	6	3	2		
Poland	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4(f)	5	11	19	10	7(k)	
Portugal	0	1(b)	1(b)	1(b)	3(b)	12	15	31	30	127	159	149(a)	110	88	133	92(a)	46	33		
Slovakia	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	6	2	7	3	0		
Slovenia	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2(a)	1	1	1(k)	
Spain	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	82	127	167	137	98	68	26(k)	
Sweden	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
Switzerland	0	2	8	15	29	64	68	45	38	14	50	33(d)	42	24	21(g)	3	3(i)	5	0	
United Kingdom	see particular table																			
United States of America	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0(k)	

* Cases are shown by year of confirmation.
... Not available

(a) Canada: 1 case diagnosed in Canada in May 2003 + 1 case diagnosed in the United States of America in December 2003 and confirmed as having been imported from Canada.

Finland: date of confirmation of the case: 7 December 2001.

France: includes 1 imported case (confirmed on 13 August 1999).

Ireland: includes imported cases: 5 in 1989, 1 in 1990, 2 in 1991 and 1992, 1 in 1994 and 1995.

Italy: includes 2 imported cases.

Liechtenstein : date of the last confirmation of a case: 30 September 1998.

Portugal: includes 1 imported case.

Slovenia: includes 1 imported case.